



K-FACTORY 可倒式ビレットレバーの秘密

K-FACTORY の人気商品の 1 つ可倒式ビレットレバーは
なぜ？ サーキット走行からツーリングまで
走行条件の違う、多くのライダーから支持されるのか？
ライダーが開発したレバーならではの
工夫の秘密を、ここで解説したいとおもいます。



可動角度は90°！ 転倒のダメージからレバーを守ります。また、根元のボルト一本でリペアレバーを交換できます。

スーパーブラック・ストロングゴールド・メタリックシルバーの3色から選べるリペアレバー



レバー先端部に設けたクラッシャーポイント。



折れても根元が残るので、なんとか操作できます。

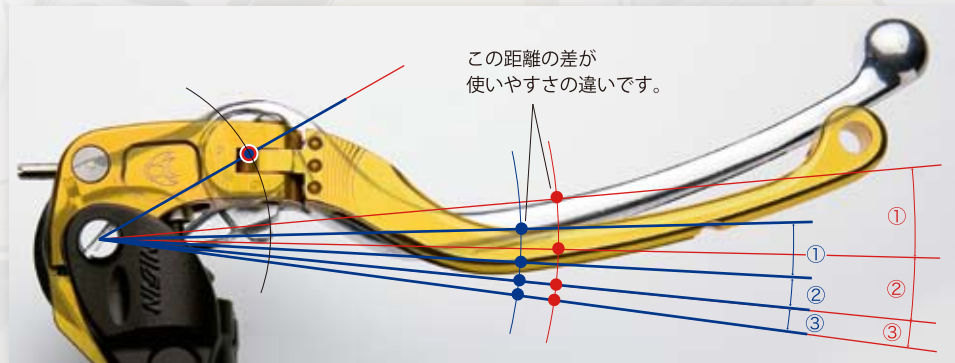


秘密その1

【可倒式レバー】はサバイバルに対する1つの答え

クラッチをつないで発進。ブレーキをかけて止まる。バイクで走行する際、最も基本的な入力部を担うレバーが、まさかの転倒でポッキリ！ 当然、修理できる場所(レースならピット)や家に乗って行くことができない事態にも…。そこでK-FACTORYでは、転倒の際、最も折れやすいレバーを【可倒式】にして、**転倒のダメージを逃がし、折れにくくする構造**を採用。さらに【可倒式レバー】の**先端側にクラッシャーポイント**を設け、**根元側は残る**ように工夫してあります。このように出先で、バイク自体は走行可能なのに、レバーの破損で走行できない事態を、極力回避できるように考慮しているのです。

それでも折れてしまった場合。リペアパーツとして【可倒式レバー】の**レバー部のみの販売**もしていますので経済的にもお求めやすくなっています。特にノーマルパーツが割高の外車オーナーには、**新車からの装着がおすすめです**。また新品のノーマルレバーが手元にあるので、乗換え時の査定にもプラスに！ そのうえレバー部のみなのでかさばらず、ツーリングバッグの片隅にでも入れて行くと安心です。『備えあれば憂いなし』それがK-FACTORYのバイクライフに対する考えです。



グリップの先の方を握っても楽々レバーに指が届きます。

もちろんクラッチもストロークが短いので、左手の疲れ方が全然違います。

秘密その2 ライダーのための【レバー形状】

レバーにとって最も重要なのは、スムーズに動くこと。そう言う『可動部のフリクションロスをなくすこと…』と思われがちです。それはそれで重要なのですが、K-FACTORYは可変式レバーとニッシン製マスター用可倒式レバーにおいて、形状のほうを重要視しています。

クラッチやブレーキレバーには普通①遊びのストローク部分と②少し作用し始める部分、③本格的に作動する部分があります。その中で重要なのは②③部分です。ノーマルレバーの多くはこの②③部分を一番使いやすい位置にレバーの距離を調整すると、レバーを離れた状態では、かなり遠い位置になり初心者にはかなり不安。逆にレバーに指がかかりやすい距離にレバーをセットすると作用点が近くなり過ぎ、いきなりガツンとかかったり、強くかけると指を挟んでしまい十分な制動が得られないことも…。

そこで、重要な作動ストローク部分②③を基準に、遊びのストローク①を縮小した、ややタイトな設定を採用！これはより多くの人にスポーツライディングを楽しんでもらいたい。そんな思いで試行錯誤を重ねた、K-FACTORYこだわりの【レバー形状】です。

注)当社の可変式レバーと可倒式レバー以外はノーマル形状ですので、掲載のような効果はありません。



秘密その3

【可倒式レバー】はエアロパーツ？

サーキットで高速走行中のバイクはかなりの風圧にさらされています。その風圧がブレーキレバーを押し、意図せずブレーキを引きずってしまうことがあります。これではライダーがカウルの中に潜り込み空気抵抗を抑えて最高速をあげようとしても、足を引っ張るカタチになってしまいます。

そのため TYPE-S のレバー形状は指にフィットし、なおかつ空気に優れた断面にしています。それでも K-FACTORY のレバーは非常にスムーズに動くため、超高速域で前記のような症状が起こる場合があるのです。

とはいえ、それはサーキットでの話で法定速度内で風圧でブレーキがかかることはまずありません。そのため K-FACTORY では風圧を逃がすスリットが入った TYPE-R とスリットのない TYPE-S の2種類を用意しました。

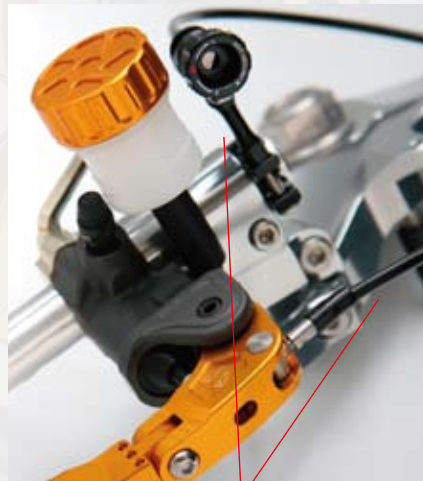
TYPE-R はテコの原理でレバーを押す力が強くなる先端側にスリットを設けています。また、レーシングマシンにとっては、スリットの分だけ軽量化できるメリットもあります。

レバーアジャスター



マイナスドライバー
でレバー比を2段階
に調整できます。

レバー・アジャスタブルワイヤーセット



ダイヤル部を使いやすい位
置にセットできるように、ワ
イヤーとステーを長さ違い
で2種、ご用意しています。

秘密その4

ライダーの感性に応える【アジャスト機構】

「クラッチワイヤーの遊びを調節したらレバーとの距離が変わってしまった」「攻めているうちにブレーキレバーが近くなってきた」「もう少し固めのタッチが好み！」など、ホント些細なことだけどライダーにとってかなり気になるところ。そんなライダーの声を K-FACTORY はカタチにしました。

オプションのレバーアジャスターを付ければグローブをしたままで、クラッチ・ブレーキともにレバーの微調整ができるし、レバー・アジャスタブルワイヤーセットを付ければ、走りながらの調整もできてしまいます。またレバーアジャスターは、好みのカラーを選べるように5色ご用意させて頂きました。ブレーキレバーに関して言えば、**マイナスドライバー1本で好みのタッチに2段階変更できる可変式レバー**をラインナップ！できるだけ感性にあったセッティングができるよう、きめ細やかな【アジャスト機構】を設けました。